

## さくらのひと、みっけ！

### 「薬」を離れて「草」を「楽」しむ 穏やかな声が、こどもたちの心に種をまく



ぜにたに いな お  
**銭谷 伊直** さん

大字外山の一角に春の訪れを告げる、黄色いじゅうたん。「さくらい菜の花プロジェクト」の皆さんが育てる菜の花畑です。4月で87歳を迎えた銭谷伊直さんは、プロジェクトメンバーとして15年以上、畑の管理に携わっています。

11人きょうだいの10番目として、天川村で生まれた銭谷さん。薬剤師として、医療用製薬業界で長く勤めました。退職後「楽しそうなことを探していた」という銭谷さんは、自然観察や体験を通じて人と森林をつなぐ、森林インストラクターの活動内容に興味を持ち、2年かけて資格を取得。その後は、自然やこどもたちと関わるボランティア活動に取り組んできました。

ボランティア仲間も目を見張るのは、銭谷さんの豊富な知識とやわらかな話しぶりです。製薬業界での経験と森林インストラクターとして学んだことを生かした、草花の名前や効用などの分かりやすい説明は、こどもたちにも大人気。その穏やかな語り口からは、にぎやかな家庭で育った銭谷さんの人柄が感じられ、周囲は自然と和やかな雰囲気に包まれます。

「聞いたことは忘れるが、やったことは忘れない。いろいろなことを経験してほしい」と、こどもたちへのメッセージを話す銭谷さん。これからも、銭谷さんたちが育てた菜の花が、まちを彩ります。

## 共に生きる

### ～心の傘を広げて～

しとしとと雨が降り続く、梅雨の季節がやってきました。どんよりとした空模様に、気持ちまで沈みがちになる人も多いのではないのでしょうか。しかし、この長雨は木々を潤し、私たちの暮らしを支える大切な「恵みの雨」でもあります。

同じ雨でも、「憂鬱」と感じる人もいれば「恵み」と感じる人もいます。私たちは、同じ状況の中にも、それぞれ異なる感じ方や事情を抱えています。その「違い」に目を向けることが、人を思いやる第一歩になるのではないのでしょうか。

例えば、雨の日の濡れた道は歩きにくく、不安を感じる人もいます。気圧の変化で体調を崩し、思うように動けない人もいます。一人一人がそれ

ぞれ異なる「しんどさ」を抱えているかもしれません。だからこそ、自分の物差しだけで判断せず、相手の気持ちに思いを巡らせる心のゆとりを大切にしたいものです。

まちに色とりどりの傘が広がるように、社会もまた多様な人々で成り立っています。誰かが雨に濡れて困っているとき、そっと傘を差し出すような優しさや、歩幅を合わせる心の余裕を持ちたいものです。梅雨空の先に虹をかけるように、私たちが手を取り合い、誰もが自分らしく安心して過ごせる社会をともにつくっていきませんか。

